

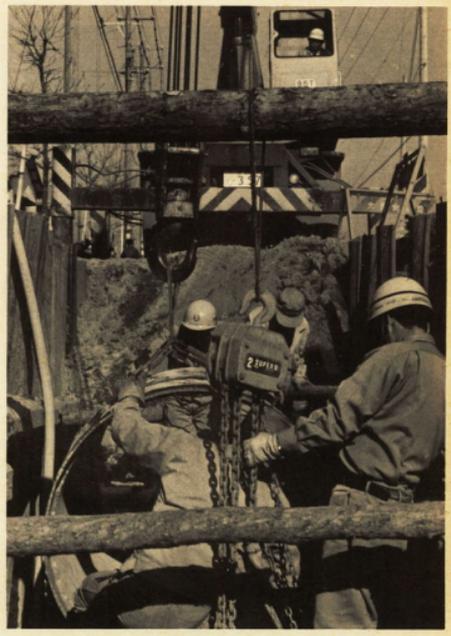
## 飲み水を造る

“湯水のよう”は昔話

水道は昔ながらの井戸から湧き出た水が、ろ過・浄化・消毒を経て、私たちの手元に届くまでには、多くの工程を要する。昔は、井戸の水をそのまま飲むこともあったが、衛生上の問題から、ろ過・浄化・消毒の工程が不可欠となった。また、井戸の水は、季節によって水量が変動するため、安定した水量を確保するために、ダムやろ過設備の整備が必要となった。現在は、高度なろ過設備と消毒設備が導入され、安全な飲み水を供給している。

### 水道は独立採算制

もともと水道は営利事業ではなく、公共事業として運営されてきた。そのため、水道事業は独立採算制で運営されている。これは、水道事業が他の事業と別れて、独自の収入と支出を管理することを意味する。独立採算制のメリットは、事業の効率化とサービスの向上にある。また、独立採算制により、水道事業は自治体の財政負担を軽減することができる。一方で、独立採算制には、事業の安定性の確保が求められる。そのため、水道事業は長期的な視点での経営計画を立てることが重要である。

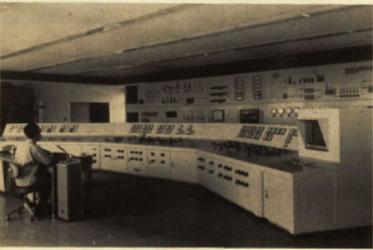


将来の需要に合わせて大径の導水管が建設される

### 経費は上昇一途

#### 借入金で設備投資

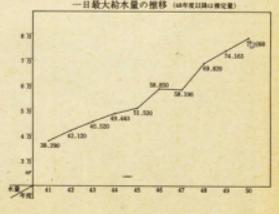
水道事業は、高度な技術と設備を必要とする産業である。そのため、設備投資は事業の発展にとって不可欠である。しかし、経費の上昇一途は、事業の持続性を脅かしている。特に、大径の導水管の建設は、巨額の費用を要する。このため、水道事業者は借入金による設備投資に依存している。借入金の増加は、事業の負債比率を高め、財務リスクを増大させている。また、借入金の返済負担も、事業の収益性を低下させている。そのため、経費削減と収益向上の取り組みが急務である。



中央制御で水を管理する(水処理場)

### まず経営改善の努力

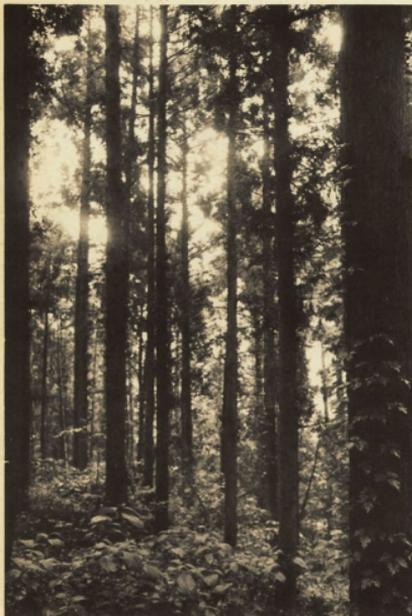
水道事業は、公共サービスとして運営されている。そのため、経営改善の努力は、サービスの向上と事業の持続性を確保するために不可欠である。まず、コスト削減の取り組みが重要である。例えば、エネルギー効率の向上や、設備の保守点検の徹底などが挙げられる。また、人材育成と業務効率化の推進も、経営改善の鍵となる。さらに、顧客サービスの向上も、事業の発展に貢献している。例えば、水道料金の見直しや、サービスの透明性の向上などが挙げられる。最後に、環境配慮型の事業運営も、経営改善の一環として取り組まれている。例えば、再生水の利用や、温室効果ガスの削減などが挙げられる。これらの取り組みを通じて、水道事業は持続可能な発展を遂げている。



# ふるさとは心の宝

～これはみんなのものです～

↓深閑とした塔ノ峰の杉林



神奈川県ではこの日の前後一週間(6月29日～6月11日)を環境週間とすることにしました

## 6月5日は世界環境デー



↑釣り人のメツカ小田原海岸



↑樹齢200年という「御感の藤」

←いまも残る「空堀」



↑静かな稲葉一族の墓所

←緑に囲まれた天守閣



←酒匂川の松並木を縫うサイクリングコース













